

マップを用いた問題解決の方法

富山県立八尾高等学校 森田 里香

1 はじめに

新学習指導要領を受けたこれからの教育について考える機会が多くなった。今までは「教員が何を教えるか」が中心で「子供たちに何ができるようになるか」という視点が欠けていたが、これからは子供たちに身に付けさせたい力を考え、そのために何を学ぶのか、それをどのように学ばせるのかを考えるのが大切だと言われている。

昨年、富山大学における教員免許更新講習で「MAPで学ぶ問題解決」という講義を受講した。この講義で、マインドマップ、ブレインストーミング、KJ法の実習を行ったが、ここで「マップを書く」ことが非常に学びに効果的であると知った。マップを書く意味は、次の通りである。①頭の中でテーマに関連した連想を広げ、その頭の中の情報を紙の上に外化する。②項目の関連性を考え、新たな意味や構造を発見することができる。③テーマに対する発想や関心がさらに広がる。今回、科目「社会と情報」の授業で「マップを用いた問題解決」を実践してみることにした。

2 実践

情報とメディアの「メディアリテラシー」の単元における学習計画は図1の通りである。

(1) インターネットの利用についてマップを作成する

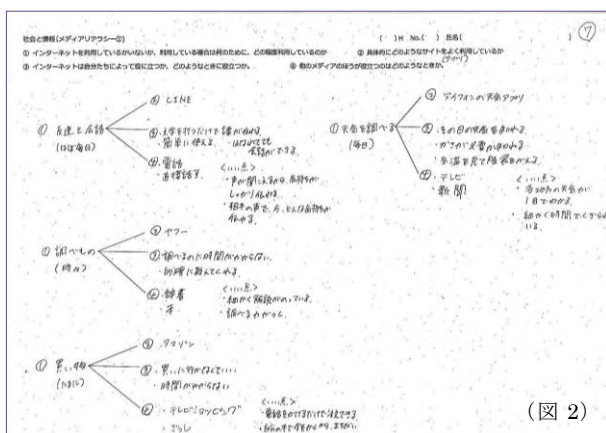
生徒に各自のインターネットの利用についてマップを作成させた。

マップの様式をいくつか紹介し、(図1)

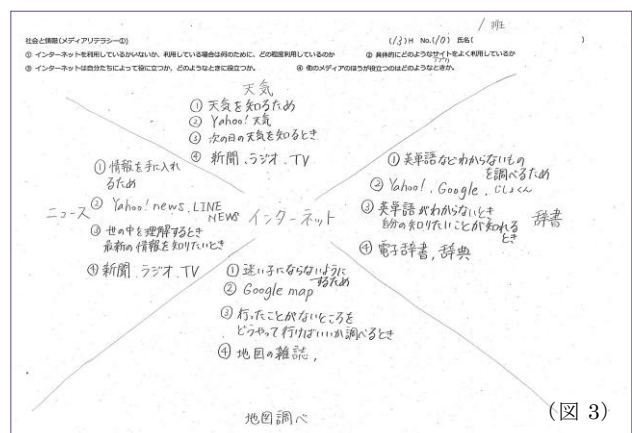
自由にマップを作成させ、グループ内で発表させた。生徒が描いたマップを二つ紹介する。

(図2,3)

時数	授業の流れ	方法
1	①自分がどのようにインターネットを利用しているか考え、各自マップを作成する。 ②グループで発表し、評価し合う。	・マップ ・レポート
2	①前回の学習をふまえ、グループでテーマとするインターネットのサイトを決定する。 ②サイトを調査する。 ③テーマに関わるアイデアを出し合う。	・マップ ・ブレインストーミング
3	①前回のアイデアをKJ法を使ってまとめる。 ②発表の準備をする。	・KJ法によるマップ
4	①グループごとに発表する。 ②他の発表を評価し、振り返る。	・レポート



(図2)



(図3)

生徒たちは、マップを使ってグループ内で発表することは難しいと捉えつつも、マップを用いたグループ発表は「良い」と答えた。自分には思い浮かばない様々な考えを知り共有でき、共通点や相違点を見つけて視野が広がるという意見が多く聞かれた。

テーマとなるインターネットサイトのアイデアを付箋に書く時、付箋を一人一人に配ることはせず、付箋はすべて書記が書くように指示した。司会が話の流れを作り、グループ内で会話をし、会話の中で生まれたキーワードを書記が書き留めて付箋を増やすように指導した。

集まった付箋のまとめ方には次のような工夫を促した。グループに分けてタイトルをつける場合は、タイトルをピンクの付箋に、テーマについての問題点はブルーの付箋に、そして問題点から改善できることや解決策が見えてきたら、グリーン色の付箋に書き足すようにする。このように付箋を色分けし、発表の際に解説することを意識した効果的なマップを作るよう指示した。出来上がったマップの例を二つ示す。



LINE

- 機能
 - グループ スタンプ 課金 通話
 - アルバム 会話 LINE ニュース 公式アカウント
- LINE+P-R-M
 - PDP ココロ LINE プログラム
 - LINE プログラム プラザム
 - ココロ バブル
 - ココロ バブル
 - ココロ LINE プログラム
 - ココロ リトルバズ
- プレイド
 - 情報と相談 情報と相談
- 問題点
 - 未読スルー 既読スルー 非表示 ログ 非通知 LINE+P-R-M → 相手からLINE
 - 標準の通知 → 電源を切ると 持ち越しなし

音・問題点、練習・開演案
9月迄

制限点
時間
量
ゲームや動画

(图 5)

グループ発表を行い、お互いのマップを評価させた。また、発表後にKJ法による問題解決方法についてどう感じたか、感想を書かせた。生徒の意見をまとめたものが図6である。

KJ法による問題解決は、テーマを違った視点で見ることができ、多くの情報、新しい発想が生まれる。話が広がり、工夫を凝らしたマップを作ることによって個性のある発表、わかりやすい発表ができ、それを聞いてますます理解を深めることができる。生徒の中には、今回のような話し合いの方法を他の時間でも取り入れてみたいという意見を持つ者もいた。他教科や特別活動、総合的な探究の時間などでも取り入れ、問題解決の手法として使えるようにしていきたい。

